

京都DWAT平常時の活動実績

○京都府総合防災訓練への参画

訓練の計画段階から参画し、体育館での避難所運営において、高齢者や障害者等、配慮が必要な方への対応についてロールプレイを実施



・アセスメントの実施



- ・車いす利用者の誘導
- ・保健師との合同健康調査

・耳が不自由な方への説明



○地域の防災訓練への参画

地域で開催された防災訓練にて地域住民の協力(要配慮者役)のもと、アセスメント訓練を実施(避難生活の安心感)



○地域の防災訓練への参画(近隣府県との連携)

兵庫県丹波地域合同防災訓練に参加し、丹波市(兵庫県)の要請により京都DWAT中丹西チームが丹波市内の避難所に派遣され、要配慮者のアセスメントを実施し、福祉避難所へ移送



○研修会での講師や地域の行事等への参加



サポートリーダー養成研修講師



自主防災組織訓練への参加



社会福祉法人会合での広報



児童館(放課後児童クラブ)との連携

○研修会での講師や地域の行事等への参加



華頂女子高校でのワークショップ



イベントへの参画依頼、講師



京都市消防団フェスタへの参画



京都市総合防災訓練へブース設置

○防災フェスタでの啓発

「京(みやこ)防災フェスタ2017」で京都DWATブースを設置し、DWATの啓発を実施。啓発だけでなく多くの参加者から意見を聞くことができた。



ダンボールベッドの体験



DWATの説明



参加者の声

- これから高齢者が増えるので福祉的支援は必要
- 福祉施設の職員が避難所に来てくれるのは安心
- 福祉避難所が機能しない中、一般避難所の充実は重要
- 早く全国的に広めて欲しい(広域・相互支援できるよう)

○施設と地域が連携した取組

DWATチーム員施設での防災の取組に自主防災組織、消防団、近隣住民、女性会等が参加し、DWATの紹介を行うとともに地域と施設が連携して地域の防災力を高める取組を実施



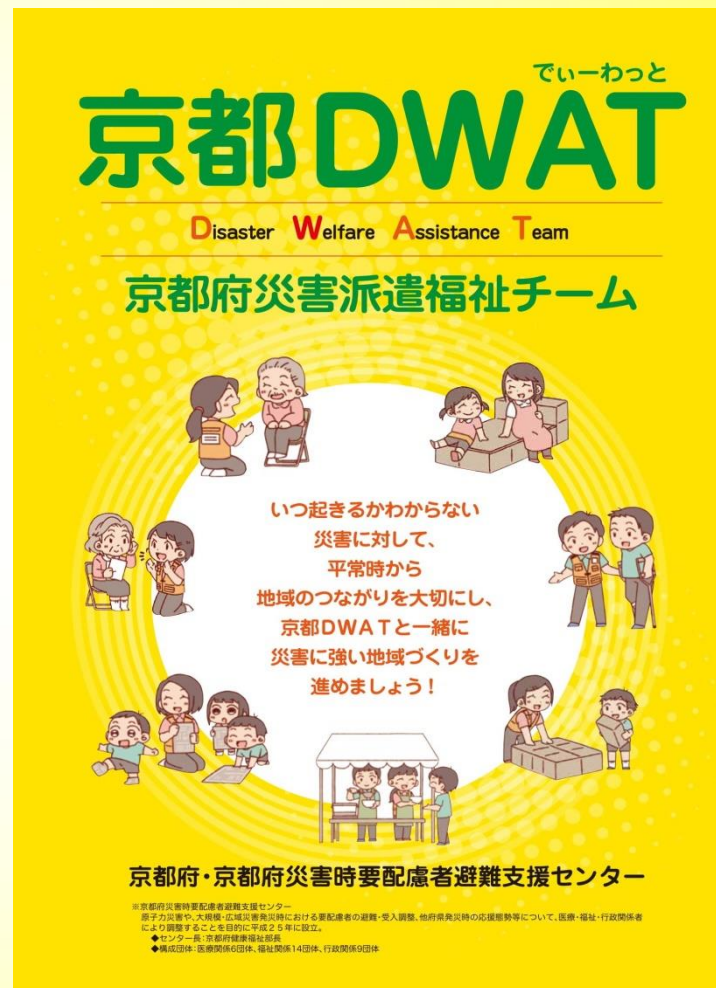
○メディアを活用した広報



テレビへの出演
(デイリーニュース京都(J:comチャンネル京都)より)



ラジオへの出演
(ネットワーク1・17(MBSラジオ)より)



京都DWATパンフレット作成

○メディアを活用した広報(新聞)



宇治市
災害避難所に福祉支援も
「京都DWA T」が初参加

外国人役の人から心身の状況を聞き取る
京都DWA Tのメンバー(宇治市立広野中)

京都DWA Tは、2011年の東日本大震災で長期的な避難生活に伴い要配慮者の体調が悪くなるなどの二次災害があつた教訓を踏まえ、14年度に結成された。今年度は福祉や介護福祉士、ケアマネジャーなど福祉専門職の約100人が所属して

災害時の避難所で障害者や高齢者、外国人などを支援する京都府災害派遣福祉チーム「京都DWA T」が4日、宇治市立広野中で開かれた奥広野自治会の防災訓練に参加した。救助された要配慮者から心身の状況や身元を聞き取り、適切に支援するための要領を確認した。

【2017年2月5日洛南タイムス】

2017年(平成29年)6月5日

災害福祉チーム 養成加速

DWA T

府8圏域に12組設置

府は、O151年度に、ハザード全面避難勧奨など、大規模災害に備えるため、現在、京都府内全域に、約1200人の被災者を支援する「災害福祉チーム」を養成している。府は、今年度、このチームをさらに増やし、約1800人に増やす方針だ。

府は、O151年度に、ハザード全面避難勧奨など、大規模災害に備えるため、現在、京都府内全域に、約1200人の被災者を支援する「災害福祉チーム」を養成している。府は、今年度、このチームをさらに増やし、約1800人に増やす方針だ。

府は、O151年度に、ハザード全面避難勧奨など、大規模災害に備えるため、現在、京都府内全域に、約1200人の被災者を支援する「災害福祉チーム」を養成している。府は、今年度、このチームをさらに増やし、約1800人に増やす方針だ。

府は、O151年度に、ハザード全面避難勧奨など、大規模災害に備えるため、現在、京都府内全域に、約1200人の被災者を支援する「災害福祉チーム」を養成している。府は、今年度、このチームをさらに増やし、約1800人に増やす方針だ。

【2017年6月5日京都新聞】

大規模災害 連携を確認

府庁、八幡で1000人参加訓練

避難所運営、救助活動など



大規模災害を想定した府総合防災訓練が3日、京都市上京区の府庁や八幡市野尻の八幡市民スポーツ公園と市民体育館で開かれた。

約千人が参加し、昨年の熊本地震をふまえた避難所運営などが行われ、災害時の連携を確認した。生駒断層の直下型地震と局地的豪雨による複合災害を想定。近畿地方整備局や自衛隊、府警など約70機関が参加した。

午前8時半から災害対策本部の設置訓練が府庁で行われた。山田啓二知事と緒方直己府警本部長、府や京都市消防局、自衛隊の幹部ら約30人が参加した。山田知事が「人命確保を最優先に万全を期してほしい」と指示。府幹部らが、人的被害や孤立地区、救助活動の最新情報に続いて、公共施設や病院、道路、ライフラインの被災状況を報告し合い、情報を共有した。府内の4広域振興局はテレビ会議システムを使って各地域で発生している被害を報告した。

午前10時から行われた八幡市での地震・水害対応訓練は、市民体育館では、府の「災害派遣福祉チーム(DWA T)」や同市職員、保健師らが、避難してきた住民の受け付けや、認知症や下肢障害など高齢者や障害者の避難を想定した訓練を行った。参加したベトナム出身のチャン・ジョン・ヒエンさん(33)は「同市、山川は「災害があつた時、どうすればいいかわからなかった。不安があつたがもう大丈夫」と話していた。

公園では、倒壊ビルからの救出・救助訓練などが行われた。(今口規子、吉永周平)

認知症患者らが避難したという想定で行われた避難所運営訓練(八幡市野尻・八幡市民体育館)

【2017年9月4日京都新聞】

○メディアを活用した広報(新聞)



【2018年7月23日山陽新聞】



【2018年6月20日読売新聞】

京都DWATと一緒に 災害に強い地域づくりを進めましょう！

～ 地域の行事や訓練への参画、研修会での
講師依頼等、お待ちしております ～

